

授業科目名	和文 とちぎ終章学総論						
	英文 Introduction to gerontology in Tochigi.						
開講時期	後期	曜日	火	時限		時間割コード	
学部・学科等	基盤教育			標準対象年次		必修・選択区分	
科目区分				単位数	1	授業形態	講義・演習
担当教員名	大森 豊						
電話	5360	e-mail	shusho@cc.utsunomiya-u.ac.jp				
オフィスアワー	火曜 10:00～12:00、15:00～17:00			科目等履修生の受入れ		受入不可	

#### 【授業の内容】

2025年から日本は超高齢社会となり、65歳以上の高齢者が国の総人口の30%を超えると予想されている。今後ますます様々な環境において高齢者と共に生きる社会になる。そこで、高齢者に関する課題を自らの問題として捉え、高齢者と共に生きるため、また、自分自身も豊かな終章を生きるための知識について学ぶ。

「とちぎ終章学」という言葉には、人生の最後の時期を困難や苦しさの中で過ごしていくのではなく、どのように豊かに、幸せに暮らしていくのかという問いと、栃木県の地域課題である高齢化をポジティブに捉え直していくという願いが込められている。

#### 【授業の到達目標】

- (1) 人間がどのように老いていくのか、その生き方の多様性を理解し、関心を持つ。
- (2) 高齢社会における生活をめぐる課題について理解し、解決策について考える。
- (3) 自らのこととして老いや終章について考えることにより、人生を積極的に生きる意欲を喚起する。

#### 【学習・教育目標との関連】

基盤教育科目の目標である行動的知性の養成を進めるために、特に学内外の講師や実践家による社会問題の第一線から見た世界を広げることを意図している。また、学生同士のコミュニケーションを促すアクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目として位置づける。そのため、双方向型の討論等を積極的に取り入れた参加型の授業スタイルを導入して、学生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合へと進めていく。

#### 【前提とする知識、関連する科目等】

特になし。

#### 【授業の具体的な進め方】

講義だけでなく、グループでの話し合いやゲストスピーカーへのインタビューなど、アクティブ・ラーニングで展開する。

#### 【授業計画】

- 第1回 終章学とは何か
- 第2回 「家族を看取る」を考える
- 第3回 多様な終章の生き方
- 第4回 終章と健康
- 第5回 認知症サポーター養成講座
- 第6回 終章とコミュニティ
- 第7回 高齢社会に立ち向かう先輩の姿
- 第8回 まとめとふりかえり（試験）

#### 【教科書・参考書・教材等】

- ・下野新聞編集局取材班『終章を生きる 2025年超高齢社会』2013 下野新聞社
- ・全国キャラバン・メイト連絡協議会編『認知症サポーター養成講座標準教材 認知症を学び地域で支えよう』2013
- ・必要に応じて適宜資料を配布する。

#### 【成績評価】

毎回記入するふり返しカード、グループワークへの参加と貢献、レポート、試験によって評価する。

#### 【学習上の助言】

「超高齢社会」や「終章」など、学生の皆さんにとってはまだまだ遠い未来のことで、自分には関係ないと感じるのではないかと思います。今後ますます様々な環境において高齢者と共に生きる社会になります。2025年の栃木県では、25市町のうち16市町において65歳以上人口が30%を超えると予想されており、1人の高齢者を1.9人の現役世代で支えることとなります。

この授業では、人間の老いや高齢社会における生活をめぐる課題について学ぶことで、自分の生き方を考えることができます。また、専門家による講義やグループでの話し合い、ゲストスピーカーへのインタビューなどの手法で授業を展開するので、より実践的に学ぶこともできます。